

# 長房だより

～校訓「強く 正しく 美しく」～

令和8年2月19日  
地域運営学校  
八王子市立長房中学校  
【第10号】

## 確かな芽吹きがあちこちに

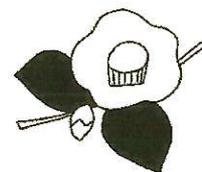
校長 上田 太

三寒四温という言葉がふさわしい季節となってきました。もうすっかり梅の花が咲き誇っています。連日の日本選手の活躍に沸くミラノ・コルティナ冬季オリンピックも終盤に差し掛かってきました。

さて、以下の別項でもご報告しているとおり、1月は1年生のスキー移動教室、2年生の鎌倉校外学習など、校外での行事が続きました。1年生のスキー移動教室では予定していた参加者は当日遅刻もなく参加でき、3日間事故・けが・病気などなく、無事にやり遂げました。学年・学級だよりに掲載された生徒の作文はどれも豊かな実りが記されており、特に「ずっとこの時間が続いて欲しいと思った」という言葉に、本当にこの行事ができて良かったとしみじみと感じ、学校で行う特別活動の大切さを改めて実感しました。2年生の鎌倉校外学習では西八王子駅での出発・帰着時の様子や鎌倉での姿などから、目的をよく意識して行動できている姿が認められました。他校の生徒も思いのほか多く、所々で混雑する中でしたが、班でお互いに気を配りながら見学も真面目にできていたと思います。今月に入り、5組は稲城iホールにて開催された劇と音楽の会でハンドベルやトーンチャイムとダンスの披露をしました。長房中ならではの明るいパフォーマンスに、会場の雰囲気はばっと盛り上がりました。学級閉鎖で練習時間確保が厳しい中、団結してよく仕上げました。3年生は受験期の特別な一日一日を過ごしてきました。今週末がいよいよクライマックスといえる都立一般一次試験です。面接練習の中では、自分の将来を見据えて、一人一人が一所懸命に話してくれました。どうか自分の中に蓄えてきたものを積極的にアウトプットしながら、道を切り開いて欲しいと願うばかりです。

今月2日の全校朝礼では、「あの人からはどう見えているかな?」というテーマで、多面的・多角的に考えることの大切さについての講話をしました。先月にも少々書きましたが、人の脳はそもそも「考えたくない」特性をもっているといえます。そこにSNSの影響などによる一面的なものの見方や「白か黒か」といった二者択一的な考え方に流されがちなの頃の風潮が加わり、知性を磨く大切さを改めて感じずにはられません。

また、先月号で結果報告した12月の学校評価アンケートでは、いただいた自由意見に対して真摯に受け止め改善を行っていく所存ですが、学校運営協議会から学校の対応についてももう少し具体的に回答すべきとの意見をいただいたことを受けて、以下に回答を掲載させていただきます。なお、内申(評価・評定)に関しては奥が深いものなので、別に特集として本号と次号にわたって連載いたします。



今年度も残すところあとひと月余りとなりました。生徒たちの姿からは次のステップに向けた確かな芽吹きがあちこちに見られます。春の足音はもう大きく聞こえています。

## 学校評価アンケートにいただいたご意見から

先月号で集計結果をお伝えいたしました。たくさんの励ましやお褒めの言葉をいただき教職員一同大変励みになります。また、今後のために課題のご指摘もいただきました。ここではその回答を掲載させていただきます。

1 3学年の社会の先生が常勤ではなく、分からない事が質問できない。模範解答もなくわかりにくいのが解決できない。受験生としては不便。

(回答) ご不便をおかけし済みません。在校時間の限られる非常勤の時間講師が止むを得ず3年生の担当となることによって学習上の不便が生じないように、ご意見を踏まえ改善していきます。時間講師の担当授業については特に定期テストの模範解答などは作成・配布するようにしていきます。

2 学習の面で、都の平均と比べるとあまり成績が良くないので、高校に行ってから苦労しないかと少し心配しております。

(回答) ご心配される気持ちもよく分かります。但しその高校に入れたのであればその高校の学習レベルには合っているとお考えください。市学力定着度調査や全国学力学習状況調査などの結果から、確かに長房中の平均点は下回っているものがあります。全体的なレベルアップももちろんですが、特に低得点の生徒への支援が喫緊の課題と認識しています。自主的補充学習の場である「まなび」の運営方法の改善・充実をはじめ、「はちおうじっ子ミニマム」を活用した補習等の工夫と強化を進めていきます。それとともに教科書やテストの問題文を正しく読み取れていない生徒もいるようですので、こちらへの対策も宿題や家庭学習の取組と合わせて進めていきます。

3 娘は分からない学習内容を持ち帰ってきてよく嘆いて(わめいて)いるので、自分から聞きに行くよう伝えていますが、なかなか聞きづらいようなので、まなび教室の中で質問したり、自習のコツなどを体験したりできるとありがたいです。

(回答) おうちでのご対応ありがとうございます。上記回答と重なりますが、まさに「学び方を身に付ける」指導が大切と考えています。工夫して進めていきます。

4 特別支援について、5組の皆さんとの交流はあまり多くはないという印象をもっているのですが(違ったらすみません)、部活や行事以外でも、普段の生活でも交流が少しでも増えると、子ども同士の人としての学びが深まるのではないかなと勝手に考えております。当たり前の優しさがもてる子どもたちや地域になってほしいです。

(回答) 温かいご意見有難うございます。5組と通常学級との交流は、同一部活動への参加、体育大会での5組種目への通常学級生徒の参加、合唱コンクールでの5組生徒の通常学級への参加などです。ご指摘いただいたように通常授業や給食など、子供たちの状況に応じてさらに増やしていきたいと考えています。

5 こちらのアンケートで気付いたことで一点。1~3の回答選択肢に「こちらも選択できません」というものがありました。これは不要な項目かと思いました。

(回答) ご指摘ありがとうございます。Formsでの集計上、選択できない選択肢となっていました。表現を改善いたします。

6 合唱コン練習の時、まだ全く揃っていないのに先生方もふざけていて練習が進まない時があって不安を感じている子供たちもいたようです。

(回答) お子さんももどかしい思いだったかと思います。教師に何か指導意図があったのかもしれませんが、一生懸命取り組もうとしている生徒が不安にならないようにしなければなりません。ご意見を受け止めて今後の指導に反映していきます。

7 子供から、理由がわからない校則があるときいている。

(回答) 校則というのは、本校では「生活のきまり」と呼んでいます。文部科学省から出されている生徒指導提要にもある通り、きまりは生徒が理解できるものである必要があります。教師は説明できなければなりません。理由が分かれば納得できるものもあるでしょう。きまりを必要に応じて変えていくための手順も整えてきています。理由の分からないもの、根拠が明らかでないものは生徒からでも教師からでも声を上げて変えていきましょう。

8 生徒によって態度を変える先生がいると聞いている。挨拶をしても返ってこないと言っている。無視される心当たりもないと言っている。

(回答) ご意見ありがとうございます。教育は人対人の営みですから、相手に応じて接し方が変わることは当然あります。但しここでのご指摘は公平に同じように接すべき場面で、そうではないということなのだと思われ受け止めます。改めて教職員全員で心当たりがないか謙虚に自省していきます。

9 授業中に私語が多いことがあるようで、先生の話が聞きにくいときがあるようです。先生が注意しても止まないそうです。これから3年生になり受験期に入っていくので心配です。

(回答) 私語なく全員が集中して向かえる授業を作ることが教師として目指すべきところですが、一方で発達上の特性から、悪意なく授業中の妨げとなる言動をしてしまう生徒もいます。かがやき教室などでトレーニングをしたり粘り強く働きかけたりしています。私語が広がるのはこうした一人二人の言葉に周りが反応してしまうことが多いです。学級の雰囲気づくりには生徒とともに取り組んでいきますのでご家庭でもご支援をお願いします。

10 小学校では毎日PC使用し様々なものに取り組んでいたが中学に上がってから触れていない。ここから1番活躍すべきものではないですか?高校生になってからまた苦労するのが目に見えてる。

(回答) ご意見ありがとうございます。GIGAスクール構想の中で、全ての生徒がグローバルな情報と適切に接することができることが大切と考えています。生徒用学習端末は、教科の授業だけでなく今年度校内研究に取り組んだ道徳科のほか、学級活動、特別活動、生徒会活動、総合的な学習の時間など、日々の教育活動の様々な場面で活用しています。家庭に持ち帰っての使い方には小学校との程度の違いはあるかもしれませ

んが、触れていないということはありません。また、何が何でもPC（学習端末）を使わんとすることによる弊害も世界の教育現場から報告されています。長房中学校では引き続き「主体的で対話的な深い学び」を実現するために学習用端末の効果的な活用法について工夫を続けていきます。

#### 11 進路指導対策がやや弱い。

(回答) 進路指導についてはなかなか「十分」という評価がいただきづらいところです。進路指導とは本来の広い意味でキャリア教育でもあります。これは生涯を見通して進めるもので、どんな進路に進んでも困らないように基礎的・汎用的な能力を身に付け、社会的自立、自己実現を目指します。長房中学校区では来年度から小中一貫した計画のもと、地域と結びついたキャリア教育を強く進めていきます。一方で狭義の進路指導は受験や進学・就職など中学校卒業期に焦点を当てたかなり具体的な指導になります。どちらについてのご指摘かあるいは両方のことなのか測りかねますが、共に充実させていかななくてはと考えております。入試制度や個別の上級学校説明は進路説明会で行っていますが、次年度は都立富士森高校の校長先生の協力もいただきながら、高等学校選びをするにあたって必要な基盤となる知識についてなど、3年生になる前に指導できるように計画しています。

#### 12 全員一律の提出物を大量に課すのはやめてほしい。学力の個人差が大きく、結果として子どもたちの成長につながりにくいことにもっと問題意識を持ってほしい。強調したいのは以下の2点。一つ目として、ワークなど標準として何かを示しつつ学力のレベルに応じて難しいものや易しいものを選んだら良いのでは。学力の低い子でもそれをやりきったら自信になるし、基礎も身につく。やりきったことをしっかり評価してあげれば良い。勉強が進んでいる子は難しい課題にチャレンジしてより力を伸ばしたらいいと思う。二つ目として、丁寧なフィードバックは子供達の成長に必須であることを教職員一同肝に銘じてほしい。フィードバック抜きに結果だけで点数をつけるのは指導ではなくただの事務作業である。課題を出すにせよちゃんとフィードバックできる分だけにすべきである。学習効果の低いワーク、提出物が子どもたちの貴重な時間を奪い、それによって成績をつけられている現実にも自覚を持ってもらいたい。以上、何卒宜しくお願い申し上げます。

(回答) 課題の出し方とその評価についてのご意見有難うございます。課題の取組に対するフィードバックの大切さもおっしゃる通りです。ただ大量に課題を出して、成果のフィードバックもきちんと行われていないようなものは、単に成績を付けるためのものであると言われても仕方ありません。そもそも成績に直接反映するのは学校で取り組んだ課題のみが原則と考えています。家庭学習としてのいわゆる宿題は、個別最適な真に学習効果の上がる出し方を追究していきます。

どの子も中学校卒業までに最低限必ず身に付けておくことが必要な内容があります。八王子市で実施している「はちおうじっ子ミニマム」に出題されているような内容です。これらは今後の学習を積み重ねていく上でも、社会生活を営む上でも、正しく思考するにあたりどうしても必要なもので、繰り返し徹底して身に付けておかなければなりません。人間は発達段階に応じて、単純に繰り返して暗記をすることが適している時期と、メモや感情の動きで記憶することが適している時期があります。小学校時代は主に前者、中学校時代は前者から後者への過渡期といったところです。かけ算の九九や都道府県名、国名、元素記号など、興味をもった小学生はすらすらと覚えていきます。例えばポケモンの名前をおどろくほどのものすごくたくさん知っているお子さんや数回聞いただけで曲の歌詞を覚えてしまうお子さんもいることでしょう。機械的に知識を定着させるためには類似問題の繰り返しが大切です。ですからご意見にあるようにワークによるドリル形式の学習も効果的ですし、お子さんの理解の状況に応じた内容と範囲を示した宿題を出すことも大切です。ミライシードなどの取組状況を形成的評価（※下記特集参照）にもっと積極的に活用することも考えています。

## 特集 内申書と評価・評定(上)

### 1 保護者の方のご意見から

- ① 今時成績は絶対評価のはずだが、「全員4、5にする訳にはいかない、3以下も一定数必要だ」と公言した教師がいる。
- ② 塾からも八王子市内の他校では4教科は4、5しか付けない中学校も結構あるのに、長房中の評価は異常に厳しく、受験において不利で可哀想だといわれた。
- ③ ある教師は、小テストの返却後、生徒の申告内容次第で点数UPの修正をしているようだが、一部の女子にだけとても甘い対応をしているようだ。これらの不公平な対応には不信感しかない。

上記ご意見のように、学習評価については様々な不信感を抱かれている方がいらっしゃいます。この特集では、学習評価をめぐる現状と課題について皆様と共有できればと考え、上下2回にわたって連載します。

学習評価とは生徒の学習状況を評価するものですが、その「評価」には大きく分けて「目標に準拠した評価」と「集団に準拠した評価」の2種類があります。「目標に準拠した評価」とは教科や単元の目標に対して

何がどこまでできるようになったのかを評価します。「集団に準拠した評価」とは集団内で評価段階ごとの決められた割合に合わせて評価をします。

また、「絶対評価」と「相対評価」という言葉があります。絶対評価とは上記「目標に準拠した評価」のことであり、例えば全員が目標をクリアすれば全員が高評価になります。もちろんその逆もあります。現在の通知表や高校受験の調査書に記載される学習評価は「目標に準拠した評価」＝上記①でご指摘の「絶対評価」で、この評価は各教科の観点別にA、B、Cで分析的に表されます。これを教科ごとに総括的に表したものが5、4、3、2、1という「評定」です。一方で相対評価とは集団の中であらかじめ決められた割合で評価を割り振るものです。最上位と最下位の7%ずつが5と1、上位と下位の24%ずつが4と2、中位38%が3となっていました。集団の中での位置付けを表す評価です。目標には直接準拠しません。

さらに目標に準拠した評価では表しづらい、一人一人の可能性や前の自分からどれだけ頑張ったのか、進歩したのかというプロセスは「個人内評価」として授業の中や課題へのコメント、総合所見などによって伝えていきます。

また、最終到達点として目標に準拠した評価が示されるのではなく、学習過程の中で個々の取組状況を細かく把握し評価し生徒と共有しながら指導方法や学習方法を調整し、一人一人に個別最適な学習成果を実現するために行う「形成的評価」もあります。

つまり、現行の学習評価においては、どれだけ正しく目標（文部科学省による学習指導要領に示されています）に準拠した評価をしているかが問われるものです。教師にはこれを正しく見取り評価していくことが求められます。目標が曖昧だったり見取り方が適切でなかったりした場合、適正な評価となりません。このような学習評価をめぐる保護者や生徒からの不信感は、本校だけでなく、残念ながら多くの中学校に寄せられているのが現状です。

本校の12月の学校評価アンケートでの回答では、「学習活動への適切な評価」について保護者の方の肯定的回答（あてはまる、ややあてはまる）約79%、否定的回答（あてはまらない、あまりあてはまらない）約7%、わからない約14%でした。生徒の肯定的回答は約86%、否定的回答は約6%、わからない約8%でした。

評価というのは形成的評価のように本来次への目標ややる気もてるようなものであることが望ましいのですが、評価の分かりにくさからくる不信感やうわさなどから、そのようなにならないことがあり、これを克服することが課題です。そのためには教師は言動に注意を払うことであり、適正な評価を行う不断の努力をすることはもちろんですが、保護者の方々にもうわさに流されず正しい現状を把握していただく必要があります。

ここでは、まずは学習評価が高校入試と強く結びついているところからご説明します。

## 2 内申書、内申点とは（学習評価と入試）

### (1) 「内申書」の由来

内申書という言葉は1920年代から使われていたようで、入学考査のために「外部には内密に申告する書類」という意味です。この言葉からも、秘密性が強く、生徒や保護者からは何がどう書かれているか分からないブラックボックス的なものという感じがします。ちなみに現在では内申書という言葉は正式に使っているところはなく、「調査書」と呼んでいます。内申点は9教科の評定を点数化したものですが、これも「調査書点」といいます。

### (2) 調査書の内容と高等学校入試

この調査書もしばらくはどのような内容が書かれているのか公開されておらず、しばしば「そんなことをすると内申に響く」などといわれ、生徒や保護者が学校に物を言いくいことの象徴のように見られたりもしました。現在は「調査書記載事項証明」で配布する通りの内容が記されており、具体的には学籍の記録、各教科の学習の記録（評価・評定）、総合的な学習の時間内容及び評価、諸活動の記録（英語スピーキングテストの結果含む）です。それ以上のことは記載していないので、保護者・生徒に開示された内容以外に中学校から高等学校には伝わることはありません。

### (3) なぜ学力検査だけでないのか

こうして調査書に記載された「各教科の学習状況の記録」が高等学校入試の合否判定材料に加えられています。具体的には調査書点（評定合計を換算したもの。いわゆる内申点）として得点化されます。1000点満点のうち当日の学力検査（テスト）の得点が700点満点、調査書点が300点満点であることが多いです。当日のテストの得点だけでなく調査書点が合算される理由は、中学校生活を通して積み重ねてきた日頃の学習の状況を合否判定に加味すべきとの考えからです。これに英語スピーキングテスト（ESAT-J）の20点満点がかかります。受検する学校や学科によっては当日600点、調査書点400点であったり、面接点、作文点、実技検査点がかわったりします。

### (4) 都道府県によってずいぶん異なる

ただし、上記はあくまでも東京都立高等学校の入学選抜の場合です。国私立高校の場合は何がどのように合否判定に使われるのか詳らかではなく、難関校の場合は当日点が100%というところもあるようです。他の道府県の公立校も何をどのように合否判断に用いるのかは、道府県それぞれで大きく異なります。

（次号へ続く）次号では全都での学校間の評価の公平性を確保する仕組みなどについて記します。

## スキー移動教室を終えて

1年スキー移動教室担当

1月18日から2泊3日で1年生はスキー教室に行ってきました。場所は、長野県にある、よませ温泉スキー場です。例年に比べて積雪が少ないということでしたが、長房中の生徒以外にはほとんどスキー客がいない、ほぼ貸し切り状態という環境でスキー実習を行うことができました。

このスキー教室に向けて、各クラス3名ずつ計9名の実行委員が中心となり、計画を立ててきました。決まりの検討、出発式や開校式の進め方や分担、そして夜のレクの企画・進行など、『みんなの笑顔のために』を目標によく頑張りました。

また、スキー実習では、初日は「もう帰りたい」「やりたくない」と弱音を吐いていた人も多数いましたが、最後の実習後は「あと5時間は滑りたい」「もう1泊する！」と言う人が続出しました。だんだんときれいな姿勢で滑れるようになり、転んでも自分で起き上がったり、仲間をフォローしたりする姿も見られました。何度も練習すればできるようになるという大きな達成感を感じられたのではないのでしょうか。

スキーの技術はもちろんですが、集団行動で大切なこと、誰かのために頑張ること、努力すれば実するということなど、たくさんの学びがあったスキー教室でした。



## 2年 鎌倉校外学習

2年鎌倉校外学習担当

1月30日金曜日、2年生は神奈川県鎌倉市に校外学習に行ってきました。『鎌倉の歴史と文化に触れ、学びを深めよう!』という目的を達成するために、昨年から事前学習にも取り組んできました。一人一人が事前に調べた場所を見学して、調べたことの確認と、行って初めてわかったことを学びました。学年のスローガンは『温故知新～日本の和・仲間の輪～』でした。校外学習を通して、見識を広げ、友人と協力することの大切さに気づくことができました。事後学習は、1年生に向けて体育館でポスターセッション形式での発表を行います。来年鎌倉へ行く後輩に自分たちの経験を伝えられるように、準備していきます。今回の学びを来年度の修学旅行に生かしていきましょう。



## ♪ 5組 劇と音楽の会は大成功♪

5組 劇と音楽の会担当

2月13日金曜日、5組は「多摩特研劇と音楽の会」に参加しました。今年度発表した演目は、合奏「瑠璃色の地球」、ダンス「かわいいだけじゃだめですか?」です。3年生にとっては、5組として校外に出る集大成となる行事でした。11月頃から体育や音楽の授業で練習をスタート。インフルエンザの流行で、なかなか思うように練習できない時もありましたが、一人一人が自分にできることを少しずつレベルアップさせていきました。

そして迎えた本番、緊張感が漂わせながらも、会場の雰囲気を一変させるパフォーマンスで大いに盛り上げてくれました。5組メンバーの新たな青春の1ページに刻まれる、そんな行事にできたと思います。

3年生の卒業まであと少し。「和衷共済」を学級目標に掲げ、これまで数々の行事に取り組んできました。1日1日を大切に、ともに助け合い、残りの日々を青春していきます。



### 「八王子市青少年育成環境一斉クリーン活動」のお知らせ

実施日：令和8年3月7日（土）  
時間・場所：10:00 地域ごとに集合  
（人形塚公園、長房郵便局、長房中学校前、城山手陵東公園入口）  
終了時間：11:00



### 活躍する長房中生

## 【今後の予定】

- 3月 2日（月）全校朝礼 安全指導  
都立一次発表
- 3日（火）お別れ会（5）  
保護者会（5）
- 4日（水）性教育（3） 委員会
- 5日（木）がん教育（2）  
認知症サポーター養成講座（3）
- 6日（金）がん教育（2）  
保護者会（1、2）
- 10日（火）笑顔プロジェクト（3）
- 12日（木）球技大会（3）
- 13日（金）奉仕活動（3）
- 16日（月）生徒朝礼
- 17日（火）卒業式予行
- 18日（水）卒業式準備
- 19日（木）卒業式
- 23日（月）球技大会（1）
- 24日（火）給食終 大掃除 球技大会（2）
- 25日（水）修了式 離任式

第二十四回りんり俳句大賞「中学生の部」  
年間を通して1万6192句の応募の中から  
年間優秀句に選ばれました。

佳作 青空に向けてトマトを丸かじり ○ ○ ○ ○

